

【取扱い厳重注意】

平成24年5月29日

## 聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局

局員

浅井雅司

平成24年5月29日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

### 記

#### 第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

##### 1 被聴取者

原子力安全・保安院 原子力発電検査課長 大村哲臣

##### 2 聴取日時

平成24年5月29日午後2時09分から同日午後2時29分まで

##### 3 聴取場所

東京都千代田区霞が関1丁目3番1号  
経済産業省本館2階東3共用会議室

##### 4 聴取者

浅井雅司

##### 5 ICレコーダーによる録音の有無等

あり

なし

#### 第2 聴取内容

シビアアクシデント対策について  
別紙のとおり

#### 第3 特記事項

なし

以上

【取扱い厳重注意】

別紙

1 大村哲臣氏の経歴等

- ・原子核工学が専攻で、原子力工学の試験で昭和 60 年に入省し、振出しは資源エネルギー庁の原子力発電安全審査課である。
- ・原子力の関係では、資源エネルギー庁の原子力発電課で、特にパブリックアクセプタンス、広報をやった。海外勤務後に、原子力産業課において、国際と、フロント・バックエンドと一通り全部やった。また、IAEA で、上級専門職 P5 として、アジアの原子力安全教育を担当した。平成 14 年から 2 年間、保安院原子力防災課の原子力事故故障対策室長をし、その後、ガス安全課長を 2 年。JNES に 2 年出向し、総務と企画を 1 年ずつ勤めた。
- ・平成 20 年 7 月から平成 22 年 7 月まで、原子力安全技術基盤課（以下「基盤課」という。）の課長を勤め、その後、外に出向し、そこで震災が起こった。

2 シビアアクシデント対策としての B.5.b について

- ・前任からの引継ぎに、特に航空機の落下対策について調べ始めているので、これについて日本の対応を検討する必要があるというものがあった。
- ・米国から、若干の情報はあったと思うのだが、実はほとんど情報が無かった。JNES で、ヨーロッパや米国の公開情報を調べていたし、こちらも調べてくれとしていたと思う。
- ・あまり覚えてないが、2009（平成 21）年の初頭（2 月か 3 月）に、米国の公開情報で、（航空機衝突の対策を）規則にするという事が聞こえてきた。それまでは（航空機衝突に関して）ほとんど情報が無かったという状況だったので、そういう動きがあると認識し、日本も航空機の落下対策について、もう少しやる必要があるのではないかと、改めて調べようということになった。そういう意味では、（平成 21 年 3 月の）原子力安全・保安部会で、米国でもこういう動きがあるので、我が国においても、もうちょっとしっかりと調査すると資料を出した。
- ・（平成 21 年 3 月頃からの影響評価の方法について）非常に機微情報ということで、米国の公開情報は極めて少なかったと思う。そのため、全部米国からもらえば、それをベースに検討するという事も可能だったが、なかなか、そうはいかなかった。国内で、色々な解析をやってみるかということになった。前提条件等は、全く五里霧中の状態で、何も分からなかったが、とりあえず、航空機が衝突して火災が発生するという極めてラフな想定を少し考え、どういった被害が出るのかといったことを勉強した。その時の認識では、米国側の詳細が分からないので、そういう解析結果を持って、米国とディスカッション、意見交換を通して、こちらの規制にどのように反映していくかということも、もう少し煮詰めていくのがいいのではないか。というか、それしか方法が無かったというのが、当時の認識であった。

## 【取扱い厳重注意】

- ・（影響評価の）期限は、こちらは出来るだけ早くやりたいということで、色々相談したが、やはり、数か月オーダーはかかるということだった。ちょっと、始めた時期も終わりの時期もはっきりしないが、1年はかからないだろうが、それぐらいはかかるというぐらいの感じであったと思う。
- ・前述の通り、米国の状況とか（も分からず）、（影響評価の結果は）現実にどこまでしっかりと解析されているのがどうか、本当に全く分からないという状況だったので、その結果の評価をするのが非常に困難であった。したがって、環境が調べれば、米国とディスカッションをするべく、（評価結果を）よく整理していたということだと思う。解析と言っても、結局、技術的な解析であるので、先方とディスカッションするにしても、よく整理をしないといけないだろうと思った。生データに近いものばかり持っていても、ディスカッションにならないだろうから、少なくとも、技術的な整理をしないといけないというのが、当時の私自身の認識である。
- ・（スケジュールについて）作業そのものは別の人がやっていたので、いつ頃、どこまでというのは、あまり認識が無かった。ただ、あまり切迫した感じというのは無く、当時は、着実に進めていこうということだった。当時、基盤課長になって以降は、色々な規制課題があるので、それを良く整理し、よりよい安全規制にするよう、（原子力安全・保安部会）基本政策小委員会というのを開催していた。（「原子力安全規制に関する課題の整理」として）まとめたのは確か、平成22年の最初ぐらい（2月）だと思う。平成21年から、平成22年（7月）の私が離任するまでは、基本政策小委員会で規制課題をとりまとめ、それをどのように実現に向け、検討を進めていくのかというのが、基盤課としての最大のプライオリティだったと思う。順番は付けられないが、航空機の話については、それとは別枠として、着実に進めるということだったので、プライオリティをものすごくかけたということはない。着実に進めていく必要があるだろうということだった。
- ・日米では、確か年に一回だったか、定期的に会議等を色々やっていると思うが、そういう場でも、（航空機衝突の件は）問題意識があるので、いずれ準備が調ったら、意見交換をお願いしますと、確か言っていたと思う。（会議というのは、審議官級で年1回程度行っているものかという問いに対し）そうだと思う。
- ・毎回、そういう場でサブスタンスの議論をするのはなかなか難しく、中身の話はしていないと思うが、そういう問題意識があるので、いつ頃、どういう風にしましょうか、今後どうしましょうかという議論は、毎回出たのではないかな。
- ・平成21年11月に最終版という形で、（評価結果を）提出してもらったのかどうかはちょっと記憶に無い。（影響の評価には）結構長くかかった気がする。色々な作業が、ほんの少し続いていたような気もしており、その時に、すべて終わりになったか、はっきりしない。だから、組織として、これで評価・解析がすべて完了し、さて、これをどうしようか、という明確な区切りの時期があったような記憶があま

## 【取扱い厳重注意】

り無い。何か、ずるずる作業はしているという感じがちょっとある。平成 21 年 11 月というのが、(評価)作業の終了というのが、いまいち、記憶にはっきりしないというのが実情である。

- ・ (いつまで経っても前に進まないのではないかとの問いに対し) 整理そのものは、いつ頃とターゲットがあれば、それはそれなりに進むであろうから、いつ頃米国に話をするかというのが決まっていれば、そんなに難しい話ではないと思う。
- ・ (ターゲットを決めなかったのかとの問いに対し) 米国との関係で、国際的なやりとりの問題なので、ちょっと私もよく分からないが、いついつにやるというターゲットは、あまり明確に決められてなかったと思う。できるだけ早めにというぐらいで、あとは、米国と定期的な意見交換の場もあるし、米国が色々やっているイベントもあり、そこにこちらから参加することもあるので、そういった時に関係者で、少し、今後どうしようかと相談をしていたのではないかとと思う。
- ・ (平成 22 年 7 月の異動まで期間があり、リアリティがないなら、早めに米国に持っていかないと、話が進まないのではないかとの問いに対し) 国際的なやりとりは、国際室を通じてやっていたので、その辺りはよく分からない。できるだけ早くやろうという話はしていたと思うが、その辺りがいついつという話は記憶にない。
- ・ (平成 21 年 3 月の福島氏の米国訪問時に、結果に対して意見・アドバイスをもらえるという話となっていたので、とりあえず整理して持っていくことがなぜできなかったのかとの問いに対し) どうだろうか。プライオリティの問題と、行くにはきちっと整理をした説明資料を作らなければならないというのがあり、そのあたりの作業の関係かという気がする。この時期は、基盤課としては極めて忙しい時期であったというのはある。ちょうど、基本政策小委員会の話と、放射線管理の発電所における基本的な考え方等を良く整理をしようということで、放射線管理小委員会を確立か立ち上げてやっていた時期だった。少ない人数だったので、極めて多忙だったことも一つあるかもしれない。ただ、基盤課だけが抱えていたわけではなくて、基盤課はとりまとめをしており、どちらかと言えばサブスタンスは他の課室で専門的に担当してやってもらっていた。
- ・ (情報交換に制約はあったのかとの問いに対し) そこは米国の考え次第。こちらの方の情報があるからということではなく、むしろ、先方からの情報をもろうことが大事だったということであり、米国が日本のセキュリティとかを、どういう風に見ていたかということによるのではないかとと思う。